



政治専攻「演習1」
第1期第2次募集



【目次】

1. 募集について	1 頁
2. 募集に関する注意事項	2 頁
3. 選考方法	3 頁
4. ゼミ内容	4 頁
➤ 上神 貴佳 先生	4 頁
➤ 小原 薫 先生	5 頁
➤ 蒔田 真司 先生	6 頁
➤ 坂本 一登 先生	7 頁
➤ 宮下 大志 先生	8 頁

1. 募集について

【募集スケジュール】

第1期第1次募集	
終了しました。	

第1期第2次募集	
応募期間	2023年10月30日（月）正午～11月7日（火）12時50分
選考期間	2023年11月8日（水）～11月13日（月）
合否発表	2023年11月14日（火）20時予定 / K-SMAPYIIにて

※第1期第2次募集において、全1年生が登録できていない場合に限り、未確定者を対象に第1期第3次募集を行います。

※第1期第1次募集で選考に合格し、2つ目の演習を希望する場合には、この後に実施する第2期募集で応募してください。

【応募方法】

K-SMAPYIIより

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPYIIからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので必ずK-SMAPYIIからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

2. 募集に関する注意事項

- (ア)上記の募集期間に必ず応募してください。応募期間外の応募は認められません。
- (イ)K-SMAPYIIからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYIIから応募も行ってください。
- (ウ)担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なりますので、「選考方法」で必ず内容を確認の上、応募するようにして下さい。
- (エ)毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎはいたしません。
- (オ)政治専攻では、同一年度に複数ゼミを受講することが出来ます。2つ目のゼミを希望する場合には11月に行われる**第2期募集**で応募できます。
- (カ)ゼミに合格後、他のゼミへの変更はできません。
- (キ)各教員の連絡先は個人情報のため、お教えできません。
- (ク)ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～金曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
上神 貴佳	レポート	K-SMAPY II アンケート画面で回答 11月7日（火）12時50分	本演習を志望する理由 （メールアドレスを記入すること）	（書式）自由 （字数）1,000字
	面接	11月13日（月） 17時00分～17時30分	オンライン	
小原 薫	レポート	面接時持参	小原ゼミへの志望理由と、最近関心ある政治・社会の問題	（書式）自由 （字数）600～800字
	面接	11月10日（金） 12時00分～12時50分	若木タワー8階0801研究室	
菊田 真司	レポート	面接時持参	自己紹介とゼミの志望理由	（書式）A4 （字数）1,000字程度
	面接	11月10日（金） 12時10分～	若木タワー7階0712研究室	
坂本 一登	レポート	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp 11月7日（火）12時30分	志望理由と最近気になった政治的事件	（書式）自由 （字数）1,000字程度
	面接	11月8日（水） 13時00分～14時00分	若木タワー7階0705研究室	
宮下 大志	レポート	メール送付 miyashita@kokugakuin.ac.jp 11月8日（水）19時00分	現在の日本の政治をどう評価するか	（書式）自由 ただし Word ファイルか Pages ファイルでメール添付提出 （字数）1,200字
	面接	11月9日（木） 14時40分～	若木タワー8階0810研究室 集合	

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	<p>平成も約 30 年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成一をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。</p> <p>近年、平成を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2019 年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。</p> <p>本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらおう。</p>
教科書	小熊英二（編）『平成史【完全版】』河出書房新社，2019 年。
参考文献	<p>師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014 年。</p> <p>佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018 年。</p> <p>など</p>
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本を取り巻く政治の思想と問題
演習内容	<p>今、我々を取り巻く政治、社会の状況は大きな転機を迎えている。ウクライナ問題、毎年続く気候変動の弊害、安全保障、そして、2025年問題も大きな論点となっている。その中で、我々は何を選択するのか。今の日本を取り巻く政治、社会の問題について、その背景の思想・構造を含めて議論をしていく。</p> <p>前期は、岩波新書を中心に講読し、討論を行う。後期は、それぞれが関心のあるテーマについて調査し、中間発表を行い、最終的にレポートにまとめることを目指す。</p> <p>無断欠席は認めない。レポート作成のために、合宿を行うこともあるので、課外の活動にも関心のある学生の参加を求める。</p>
教科書	
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	菊田 真司
演習テーマ	「能力主義」を考える
演習内容	<p>競争に関する平等を議論する場合に、「機会の平等」と「結果の平等」という考え方があります。この考え方を講義で説明すると、「結果の平等」よりも「機会の平等」の方がより重要であると答える人がかなりいます。その理由は、人間の生まれながらの能力の違いによる扱いの差異は正当な区別であり、「機会の平等」が実現すれば、その人が本来持っている能力を正当に評価することができるからだ、ということのようです。しかし、それは本当でしょうか？その人の「生まれながらの能力」とは何で、それはどのようにすれば「正当に評価」することができるのでしょうか？</p> <p>能力に基づいて、人間の扱い方の違いを肯定する考え方を能力主義(メリットクラシー)といいます。簡単に言えば、能力の高い人が高い評価を受け、能力の低い人が低い評価を受け、それに応じた報酬(入学資格とか所得とか)を得ることは正当だ、という考え方です。しかし、現代の政治哲学者の多くは、この考え方に否定的です。それはなぜでしょうか？</p> <p>今年度の演習では、みなさんになじみの深い教育の問題を出発点に、能力主義という考え方が持つ問題点を検討します。その上で、能力主義が正当なものとして考えられることによって、個人や社会にどのような影響が及ぶのかを考えていくことにします。</p> <p>演習は、指定されたテキストを読み、担当者が報告した後で、全員で討論する形で行われます。演習参加者は、これに加えて、自分の好きなテーマについて論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。論文は、基本的に演習時間外に執筆してもらいます。</p> <p>選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
教科書	<p>松岡亮二、『教育格差』、ちくま新書、2019年</p> <p>リチャード・ウィルキンソン、ケイト・ピケット、『格差は心を壊す 比較という呪縛』、東洋経済新報社、2020年</p> <p>マイケル・サンデル、『実力も運のうち 能力主義は正義か』、早川書房、2021年</p>
参考文献	<p>本田由紀、『教育は何を評価してきたのか』、岩波新書、2020年</p> <p>中村高康、『暴走する能力主義』、ちくま新書、2018年など</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> 面接当日に都合が悪くなった場合には、karita@kokugakuin.ac.jp までメールで申し出てください。質問もこちらのアドレスまで。 「政治哲学入門」を履修済み・履修中・履修予定であることが望ましいです。

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	戦後日本の安全保障
演習内容	<p>近年、日本の安全保障をめぐる、関心が高まっている。また、ウクライナ戦争によって、戦争というものが過去の遺物ではなく、改めて現代でも起きうるものであることが明らかになった。それでは、戦後の日本は、安全保障について、どのように考え、どのような対応してきたのだろうか。まず、戦後政治のなかで、憲法9条をふまえて、安全保障がどのように議論され、あるいは議論されてこなかったかを概観したい。つぎに、戦後日本の安全保障に深く関係する日米安保条約と、安保条約の実務規定である「日米地位協定」について、その功罪を考える。最後に、東アジアにおける最大の脅威となっている中国の行動原理について、中国の内側からその対外ルールを考察し、内在的理解を深めたい。以上、戦後日本の安全保障について、日本の戦後政治という歴史的な文脈を縦軸に、アメリカと中国という国際的文脈を横軸に、立体的に分析することを通して、今後の世界を展望することを目標とする。</p> <p>前期は文献講読（各回報告者1名担当）、後期はゼミ論の作成。無断欠席、厳禁。前期の報告と後期のゼミ論作成が、単位取得の必要条件である。</p>
教科書	<p>境家 史郎：戦後日本政治史-占領期から「ネオ55年体制」まで（中公新書） 千々和 泰明：戦後日本の安全保障-日米同盟、憲法9条からNSCまで（中公新書） 山本 章子：日米地位協定-在日米軍と「同盟」の70年（中公新書） 益尾 知佐子：中国の行動原理-国内潮流が決める国際関係（中公新書）</p>
参考文献	
備考	指定された時間外に、面接希望の人は、個別にメールにて連絡してください (kazutos@kokugakuin.ac.jp)

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>宮下 大志</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>「日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来、どうしたらいい？」</p>
<p>演習内容</p>	<p>日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。</p> <p>あなたは、現在の日本の政治、そして（ちょっと抽象的になってしまいますが）日本の民主主義についてどう思っているでしょうか？</p> <p>また社会の状況としても、格差問題、女性の権利の問題などをどうするべきか、問いかけられている状況ではないかと思いますが、どう考えますか？</p> <p>どちらについても、人によって評価はさまざまでしょう。それが現状だと思います。</p> <p>そこで来年度のゼミでは、この日本の政治・民主主義さらには日本の社会について、多様な意見を持った人に集まってもらい、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかななどを論じてゆきたいと思います。</p> <p>そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということをおみなさんとやってゆく予定です。</p> <p>そしてその際には、多少は欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。</p> <p>なお、応募者は、「<u>現在の日本の政治をどう評価するか</u>」というテーマで、自分なりの評価を記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。もちろん、あなたの政治的指向性で判断するわけではなく、「どれだけ考えているか」を見たいのです。その際、必ずメール本文に応募者の氏名を明記してください。</p>
<p>教科書</p>	<p>開講時に指定します</p>
<p>参考文献</p>	<p>必要に応じて紹介します</p>
<p>備考</p>	<p>面接は、対面での面接としたいと思います。個別面接ですので、全体としては11/9(木)の14:40開始ですが、その時間に集合していただいた上で、個人個人の面接時刻を指定します。</p> <p>面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは面接開始時間を配慮してほしい（「15:15には大学を出なければならないのでその前に設定してほしい」など）場合にはメールで早めに知らせてください。メールでのやりとりで相談させていただきます。</p> <p>なお、面接は一人15分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、当日の対面での面接は遅くとも16時には最後の面接を終えられるかと思っています。</p>